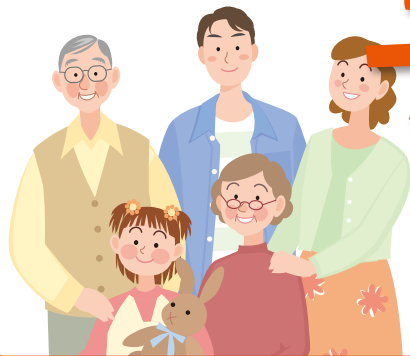


笑顔のひろば



vol. 27

冬号

発行

2014年12月10日
川崎協同病院広報委員会
川崎市川崎区桜本 2-1-5
TEL:044-299-4781(代)
FAX:044-299-4788

<http://www.kawasaki-kyodo.jp>

「地域まるごと健康づくり」への挑戦

組合員さん、職員、地域の人たちが一体となって



あいさつする桑島理事長

すばらしい秋晴れの中、「健康」をテーマに「第2回協同地域健康まつり」が開催され、250人を超える参加者を数えました。今年は、地域の組合員さんや職員に加えて、18人の看護学生・高校生も参加しました。

「健康まつり」は、川崎医療生活協同組合の組合員が主体となって開催するお祭りです。「健康」をテーマにした催しは、医療機関としてのみならず、地域における医療生協の社会的役割と考えています。

今回の祭りでは、「病院探検」、「健康講座」、「健康チェック」、「お楽しみ」と大別して4つのイベントが催されました。

「病院探検」では、日頃、一般の人ではなかなか目にすることのない病院内のさまざまな場所を訪れ、実際に医療機器にふれるなどして、医療を身近に感じてもらいました。看護師を目指す高校生も病院探検のお手伝いをしてくれましたが、彼らにとってもCT室、内視鏡室、手術室の見学や入院食の試食はとても新鮮だったようです。

「健康講座」では、医師による健康づくりのテーマでの講演が行われました。中高年の方が熱心に聞き入っていました。

「健康チェック」では、血圧、体組成、握力、肺活量、手洗いについて、チェックと職員からアドバイスをしました。看護学生も職員に交じって測定をしましたが、地域の組合員さんと接する機会があまりない看護学生たちも、組合員さん



入職予定の看護学生も血圧測定を実践！

日頃の活動の成果を披露



子供たちも手術室に興味津々

たちに要領を教わりながら楽しそうに取り組んでいました。

「お楽しみ」コーナーでは、フランクフルト、焼きそばといった軽食のほか、バザーやヨーヨー釣りなどを出店しました。屋外ステージでは、健康づくりの一環で行っているフラダンス、輪おどりなどが披露され、参加者の目を引いていました。「院長が踊ってくれて感動した。」という参加者の言葉も！

また、景品つきの大抽選会もあり、地元桜本商店街の商品券や、血圧計、体温計といった健康関連グッズが抽選で配られました。

参加者からは「こうした取り組みは日頃の健康意識の向上につながるし、継続してほしい！」といった言葉が寄せられました。健康チェックを通じた健康づくりの意識づけは、全国各地にある医療生協に共通する使命です。「地域まるごと健康づくり」をすすめる医療生協の役割の一環として、当院と協同ふじさきクリニックでは、恒例の健康まつりを通じて、地域の皆さんの健康な生活習慣の確立につなげていきます。

医事課 今藤 直之

小児科って どんなトコ?

顔見知りのスタッフで親子とも 安心してかけられる小児科に!

小児科外来では、風邪など日常的にかかる病気の診察のほかに、喘息やアレルギー、神経や心臓の病気などの専門外来や予防接種・乳幼児健診などを行っています。また、地域の子どもや保護者の皆様に身近な医療機関として、成長発達に関する相談や子どもの生活や心の問題についての相談にも力を入れています。また、以下のような3点が特徴です。

①《病児と健康児の分離》

水ぼうそうやおたふくかぜなど、感染症のお子さん専用の待合室を4室用意。さらに一般の待合室を2つに区切り、健診や予防接種にみえた健康な子どもと、風邪などの病気の子どもが同じスペースで待つことのないようにしています。



スタッフも笑顔で安心してもらえる様に対応します。



ピンクを基調にした明るい外来

②《病棟・外来の連携》

外来・病棟ともに同じ看護スタッフが日々の看護を行っています。そのため、病棟・外来双方の情報を全スタッフが共有することができます。入院が必要となったお子さんのご家族からは、『外来でよく知っている看護師さんがいるから安心できる』という言葉も多くいただいています。

③《産科との連携》

小児科病棟は産科病棟との混合病棟です。そのため、出産時から母と子に関わることができ、生まれた瞬間から関わった赤ちゃんの成長を見守れるのも私たちの喜びの一つです。

私たち小児科スタッフは、たくさんのお子様たちの笑顔や頑張る姿、成長していく姿に支えられ、日々の診療に励んでいます。お子さんが健やかに成長し、健康な毎日を過ごせるよう、また、ご家族が安心して子育てできるよう、これからもスタッフ一同努力していきたいと思えます。

小児科 看護師長 正木 伸枝

平和を願って皆で RUN !

～第5回川崎医療生協ピースラン開催～

TOPICS

トピックス

秋晴れの10月19日に第5回川崎医療生協ピースランが開催されました。毎年10月に平和な世界や核廃絶などの想いを込めて、川崎医療生協の医科事業所をタスキでつなぐマラソンイベントとして開催しています。当院の田中久善院長が企画実行委員長として準備をリードしています。

当日は8時30分に川崎医療生協最北部の事業所のあさお診療所をスタートし、久地診療所⇒坂戸診療所⇒川崎セツルメント診療所（今年は日曜健診があったため近隣のデ

イサービスみやびが給水地点）⇒京町診療所⇒川崎協同病院⇒大師診療所とつなぎ、ゴールの協同ふじさきクリニックまで総距離約35kmを走り抜けます。背中に『We run for PEACE』等のメッセージが入った揃いのTシャツを着て商店街などを駆け抜ける集団は、通行人の注目を集め、大いに平和をアピールしました。

当院からも田中院長はじめ、放射線科の福永医師や初期研修医の藤原医師、小倉医師、國枝医師など、30人のランナーが参加しました。今回は、今年度川崎医療生協理事長に就任した桑島政臣医師も2年ぶりに参加、患者さんと一緒にゴールテープを切るという場面もあり、大変盛り上がりしました。

ゴールの後は当院の吉村事務長が中心になって準備をしたバーベキュー交流会で、ふだん関わりが少ない職員や組合員さんが一緒になって楽しみました。

世界では紛争などがいまだ続き、核兵器も一向に減りませんが、私たちは平和な世界・核のない世界を願い、この平和アピールを続けていきます。

医局事務室 木下 博志



過去最高の参加者数！ゴールで集合写真。

私が担当します!

フットワーク軽く、 優しく頼られる医師を目指して



消化器内科科長
佐藤 悦基
さとう よしき

2006年昭和大学卒。認定内科医、消化器病学会専門医、消化器内視鏡学会専門医。西東京中央総合病院で臨床研修後、2008年に昭和大学消化器内科に入局、荏原病院消化器内科、昭和大学大学院での基礎研究（自己免疫性膵炎における内分泌障害をテーマに学位を取得）等を経て、2014年8月より川崎協同病院に消化器内科科長として着任

8月に着任しました佐藤悦基と申します。消化器内科全般を担当しますが、特に胆膵疾患を専門としています。

消化器内科は上下部消化管、肝臓、胆道、膵臓と多くの臓器を担当し、内視鏡はもちろんレントゲンやエコーを駆使した検査、治療も行う守備範囲の広い科です。また、消化管出血や胆道感染症、膵炎など緊急の処置が必要な疾患を扱うことが多いのも特徴です。さらに、消化管、肝胆膵の悪性腫瘍も扱い、内視鏡治療や化学療法などの積極的治療に加え、緩和医療なども担当します。

当院にはしばらく消化器内科がなく、消化器疾患は外科や総合内科の医師が主に担当していましたが、専門的な対応が困難で他院に紹介せざるを得ないこともしばしばありました。

今後は、今まで対応困難であった吐下血、胆道感染症に対する緊急内視鏡など消化器内科ならではの治療も積極的に行っていくつもりです。今後ともどうぞ宜しくお願いします。



健康まつりで内視鏡を実演する佐藤医師

STAFF「もうひとつの顔」

“和気あいあい”職場の仲間たちとボウリング!!

～全日本民医連の大会で優勝しました!!～

リハビリテーション科 作業療法士 高橋 政雄
たかはし まさお

私は勤続5年目の作業療法士として日々、患者さんのリハビリテーション業務に従事しています。その傍らで趣味のボウリングをずっと続けています。

初めてマイボールを作り、本格的に始めたのは中学一年生の時だったと思います。学生時代は、プライベートではボウリング漬けの毎日だった時期もありました。その甲斐あってか、国体やインターハイの代表選手として出場するという経験もできました。

社会人になってからは、時間の許す限り続けています。運良く職場にボウリングサークルがあり、和気あいあいとした雰囲気の中で楽しく活動しています。今年2月には川崎協同病院も所属する全日本民医連で行われたボウリング大会にも出場し、接戦の末、個人・団体ともに優勝を飾ることができました!

周りに支えられながらスポーツができていることに改めて感謝したいと思います。今後も仕事と両立させながら趣味のボウリングを楽しんで続けていきたいです。



大会で優勝! 左は協同ふじさきクリニックの小見淵医師、右は診療放射線科の八島技師



患者さんの日常生活がより良くなるよう援助します。



人との関わりを大切に、 誰もが立ち寄れる場所として 大島中島地域包括支援センター

病院は地域との連携が何より大切。近隣の医療、福祉関係の施設や機関を訪問し、毎回紹介しています。第7回は「大島中島地域包括支援センター」です。

(取材：地域連携室 鍵屋 真理 高橋 靖明)

「大島中島地域包括支援センター」は、川崎駅から新川通りを通り、追分交差点のすぐそばにあります。1階につけもの屋さんがある角のビルの2階が事務所です。

ドアを開けるとほわっと明るい部屋が見え、センター管理者の工藤さんが優しい笑顔で私たちを迎えてくれました。

川崎市地域包括支援センターは、高齢者のみなさんが、住み慣れた地域で元気に暮らし続けることができるよう、川崎市から委託を受けた法人が設置運営する、公的な相談機関です。介護保険財源により運営されています。

つまり、高齢者とその家族に関する介護・福祉・医療等についての身近な相談窓口です。川崎市には7区のなかに全部で49のこうしたセンターがあります。

業務の内容は、おもに1.総合相談・支援事業 2.権利擁護事業 3.介護予防ケアマネジメント 4.包括的・継続的ケアマネジメント支援事業—の4点に分かれます。

大島中島地域包括支援センターでは、工藤さんをはじめ、4人のスタッフがいます。

『ワンストップサービス（相談に来てくれた人は、解決の糸口が見える。結果を出す取り組みを行っている）』



地域のイベントにも積極的に参加

を心がけ、『平均寿命ではなく健康寿命を延ばす（寝たきりの長生きではなく、出回れる時間を長く）』を心がけているそうです。

高齢者の方が外出する機会作りとして

認知症予防教室、生活習慣病企画、脳の健康度テスト、おなかま喫茶など数々の健康教室・介護予防教室等を積極的に開催しています。

また、高齢者が安心して住みよい地域になることや、子供たちや若者で活気ある地域になること、イベントなどを通じて自分たちがこんな地域にしたいと考えられる地域づくりを目指しています。



1階のつけもの屋さんが目印！

●協同病院へひとこと・・・

病院によっては、包括にすべて依頼される事もあるのですが、困難ケースにもかかわらず親身になって対応していただいております。連携しやすく、依頼が来ても一緒に考えてくれるので、安心しています。

●おじゃまして・・・

「スタッフの誰がやっても相談を同じスタンスでできていて、誰でも自信をもって行かせられる」と話す工藤さん。人との関わりをととても大切にしており、地域に出るときは、帰りはあえて遠回りして違う道を通って見回るそうです。いつでも立ち寄ってもらえるような場所をめざす、そんな温かな姿勢が私たちを支えてくれているのだと心強く感じました。

大島中島地域包括支援センター

管理者 社会福祉士 工藤 優二

川崎市川崎区大島上町 18-1 サニークレイン 201号

TEL：044-276-9901 FAX：044-276-9902

駅的人身事故に、叫びたい思い

先日仕事帰りに横浜で買い物をして、さあ帰宅と思ったら、横浜駅構内で人身事故発生で電車が遅れるという放送が。ちょうど夜の9時近く、まだ駅構内は混雑している時間帯です。帰宅途中の人たちはみな、ついていない、なんでこんな時に…という表情で、構内もそんな雰囲気です。確かにそれもわかるのですが、いまこの瞬間、同じ駅の構内で失われた一つの命にもう少し向き合ってみようよ、と私は叫びたい気持ちになりました。もしかしたら毎朝同じ電車で見かける人かもしれない、仕事関係の知り合いかもしれない、ご近所さんかもしれない、ある人の命。どんな気持ちで身を投げたのだろう、今日一日をどんな風に過ごしていたのだろう、家族はいたのだろうか…。

そんなふうになくなった人のことを思い、その心の痛みを想像してみる。そういう一連の“心の作業”、私たちには必要だよなぁと感じながら、警察やレスキュー隊が慌ただしく出入りする構内にしばらく佇んでいました。

看護学生担当事務 平舘 浩美

